

小学校第3学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 友だちっていいな 2-(3) 友情・信頼、助け合い
- 2 資料名 「赤いお守り」 出典『3年生のどうとく』文溪堂
- 3 主題設定の理由

○ ねらいとする価値について

人は、一人では生きていくことができない。様々な人のかかわりの中で生活している。その中で、特に友達との信頼関係は、日常生活に潤いをもたせ、人としての喜びや活動へのエネルギーとなるものである。情報社会と言われる今、そのかかわりは、インターネットや携帯電話によるものが増えてきている。

友達との友情・信頼を深めるには、自己中心的な考え方や行動をせずに、相手を思いやり、助け合って共に向上しようとする気持ちや適切な判断力が大切であると言えよう。相手の立場に立って考え、友達のためを思い、共により良く生きていこうとする心掛けの大切さに気付かせることは、大変意義深いことと考える。

○ 児童の実態について

本学級の児童は、友達との交流が活発になり気の合う者同士で仲良く遊ぶことが増え、仲間意識が芽生えてきた。放課後や休日に電話で遊びの約束をするという児童も約半数いる。仲の良い理由は、「一緒に遊ぶから。」「よく話をするから。」「楽しいから。」と考えている児童が多く、その友達を大切にしようとする気持ちももっている。

そこで、このように友達を思う気持ちが高まりを見せようとしている今だからこそ、場合によっては、頼みを断ったり注意し合ったりすることの大切さに気付かせたい。そして、友達のことを考え、向上を願って行動する友情のすばらしさについてじっくりと共感させ、友達を思う心をはぐくむことが大切であると考えよう。

○ 資料について

本資料では、宿題を忘れた千春が、仲良しの美雪に「見せて。」と頼むが、見せてくれず憎らしいと思う。しかし、後日送られてきた手紙を読むうちに、美雪の友情を感じ取っていくという話である。手紙を手にした千春の心情を考えさせることで、千春を思う美雪の思いを感じ取らせることができる。そして、さらに、お守りを作り手紙を書く美雪の気持ちを考えさせていく中で、相手の気持ちや立場を思いやり、友達と助け合っていこうとする心情を養うことができる資料であると考えよう。

○ 情報モラル教育の視点

情報モラルに関する実態調査の結果、自分用または家族共用として携帯電話を使用している児童やメールを使用している児童が数名いることが分かった。そして、携帯電話に関しては約6割の児童が「自分用が欲しい。」と答えている。また、「友達に何かを伝えたい時どうするか。」という問いには、「家の電話を使う。」という児童が約4割いた。これから、情報ツールを使用する機会が増えていくであろう児童には、ツールの向こうには人がいるということ意識した相手の立場に立ったコミュニケーションが必要である。この資料を通して、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さに気付かせ、適切な判断力をはぐくんでいきたいと考える。

○ 指導の手立て

指導にあたっては、まず、大の仲良しなのに宿題を見せしてくれない美雪のことを憎らしく思う千春の心情に十分共感させたい。次に、口をきかない状況の中で届いた美雪からの手紙とお守りを手にした千春の気持ちをじっくりと考えさせる。本当の友達だからこそ千春の向上を願って「見せない。」と言った美雪の思いに気付かせたい。さらに、本当に友達のことを思うのであれば場合によっては頼みを断り注意することの大切さを実感させ、友達のことを思いやりお互いに助け合っていこうとする道徳的心情を高めたい。そうすることで、相手の気持ちをその立場に立って感じ取り、適切に判断して共により良く生きていこうとする心情が培われていくと考える。

4 本時のねらい

友達の気持ちを感じ取り思いやる行為について話し合うことで、互いに信頼し合い、助け合っていこうとする心情をはぐくむ。

5 本時の展開

◎：中心発問 ☆：情報モラルにかかわる発問

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 「期待される児童の姿」
導入 / 展開 / 終末	1 友達と仲良くできなかったときの気持ちを想起する。 2 資料「赤いお守り」を聴き、話し合う。 (1) 宿題を忘れたことに気付いたときの千春の気持ちを考える。 (2) 美雪に「見せないことにするわ」と言われたときの千春の気持ちを考える。 (3) 美雪から手紙をもらったときの千春の気持ちを考える。 (4) 手紙を書いているときの美雪の気持ちを考える。 3 「心のしおり」に今日の学習で考えたことや学んだことを書く。	○ 友達と仲良くできないとき、どんな気持ちになりますか。 ・ いやだな。 ・ もう一緒に遊びたくない。 ○ 宿題を忘れたことに気付いたとき、千春はどんなことを思ったでしょう。 ・ 困ったな、どうしよう。 ・ 美雪さんに見せてもらおうかな。 ○ 美雪に「今度は見せてあげないことにするわ。」と言われたとき、千春はどんなことを思ったでしょう。 ・ どうして見せてくれないの。 ・ もう、友達じゃない。 ◎☆美雪からの手紙を読んだとき、千春はどんな気持ちだったでしょう。 ・ 私のことを思ってくれていたんだ。 ・ 美雪さんこそ本当の友達だ。 ☆ 美雪はどんなことを考えながら手紙を書いていたでしょう。 ・ 千春さんに気持ちが伝わるかな。 ・ 千春さん、がんばって。 ・ 千春さんは大事な友達だからね。 ○ 今日の学習を通して考えたこと学んだことを書きましょう。 ・ ただ仲良く遊ぶだけでなく、その人のことを思って注意するのも大切。 ・ これからは、友達の気持ちを考えて行動できる人になりたい。	・ ねらいとする価値への方向付けとして、深入りせずに取り扱う。 ・ こんなとき、どんな心が大切かについて軽く触れる。 ・ みんなからうらやましがられるほど、千春と美雪が仲良しであることを押さえた上で、千春の気持ちに自分の気持ちを重ねて聞くようにさせる。 ・ 千春の困っている気持ちと困ったときには仲良しの友達が助けてくれるという安易な依頼心をとらえさせる。 ・ 感情的になり、表面的な言動に腹を立てている千春の気持ちに十分共感させるために役割演技を行う。 千春の気持ちに共感できる。 ・ 手紙を読んだ千春が美雪の心を知って感動していく姿をとらえさせ、その思いを記述させる。 ・ 千春のために思い宿題を見せなかった美雪の思いに気付かせる。 美雪に心から感謝する千春の気持ちを感じ取ることができる。 ・ 口をきかない状況にありながらも、親友のために心を込めてお守りを作り手紙を書く美雪の気持ちを感じ取らせる。 ・ 直接話すのではなく手紙を使用した美雪の気持ちに触れておく。 ・ 今までとこれからの自分を見つめさせながら、1時間の学習を振り返らせ、自分の生活とのかかわりの中で、信頼・友情という価値をとらえさせる。 これからどんな自分でありたいかを意識して書くことができる。
	4 教師の話を聞く。	○ 先生の話をお聞きしましょう。	・ 信頼・友情、助け合いの大切さを知り、友達を思いお互いに助け合っているようにしようとする意欲を高める。